

音楽

見方・考え方を働かせて学びを深めるための授業づくりのポイント

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、児童生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて学びを深めることができるような授業づくりが大切です。音楽を形づくっている要素を聴き取るだけでなく、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることにより、知性と感性の両方を働かせて音楽を捉えられるようにします。

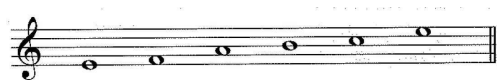
【題材例】 小学校第5学年 題材名「日本の音楽に親しもう」 教材名「音階の音で旋律づくり」
題材で扱う事項 A表現 音楽づくりア（イ）、イ（イ）、ウ（イ）、〔共通事項〕（1）
児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律、音階、反復



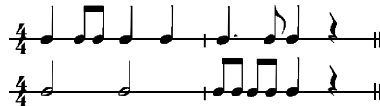
音楽的な見方・考え方を働かせる活動の例（1）

日本の音階を使い、2種類のリズムのどちらかを選んで個で旋律をつくる。

使用する日本の音階



リズム



皆さんがつくった旋律を聴いてみましょう。どのような感じがしますか。

下がっていく旋律と比べると、上がっていく旋律は気持ちが盛り上がる感じがします。



子守歌のような感じがするのは、音の高さがあまり変わらないからだと思います。



上がり下がりを組み合わせた旋律は、おみこしをかついでいるような元気な感じがします。



音のつなげ方によってイメージが変わりますね。

Point! 旋律の特徴を聴き取り、聴き取ったこととそれらの働きが生み出すよさや面白さなどを関わらせて考えることができるような活動を取り入れます。その過程で得た気付きを基にして音楽づくりをすることで、音楽的な見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現できるようにします。

音楽的な見方・考え方を働かせる活動の例（2）

3人の組になり、それぞれがつくった旋律をつなげてまとまりのある旋律をつくる。



繰り返しを使って、まとまりのある8小節の旋律をつくってみましょう。どのような音楽をつくりたいか話し合い、それに合った工夫をしましょう。

お祭りのように楽しい感じの音楽にしたいな。 **思い**



上がっていく旋律を繰り返したらお祭りのようになるんじゃないかな。高い音は元気な感じがするよ。 **意図**



楽しい感じにするには、上がり下がりのある旋律を繰り返すのもいいかもしれないよ。 **意図**

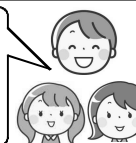


両方試してみようよ。終わり方も工夫したいな。 **試す**



Point! 思いや意図を伝え合うことと、実際に音で試すこととを繰り返しながら、表現を工夫し、思いや意図を膨らませるように促すことが大切です。

上がり下がりのある旋律を1小節目と3小節目に使い、最後に高い「ミ」で終わるようにしたら、明るく元気でお祭りの音楽のような旋律ができました。



Point! 音楽づくりの過程で、児童が音楽的な根拠を基に、それぞれの気付きを交流させることで、個々の知識が更新され、広がっていきます。